

資料室便り

交通の専門図書館 交通経済研究所資料室

■ 新着書棚から (新しく受け入れた資料の紹介)



『「自転車」はどこに向かうのか
— 青切符・違法モペッド・新交通ルール
カオスの先にある未来』

足田智著

旬報社発行

2026年4月 / 1,980円 (税込)

所蔵箇所: 信濃町

現在、日本の自転車交通を取り巻く環境は激変の最中にあり、まさに「カオス」の様相を呈している。本書は、交通ルールの転換期にある自転車および新たなマイクロモビリティの現状と課題を、多角的な視点から紐解いた一冊である。

近年の法改正だけでも、自転車ヘルメットの努力義務化や(特例)特定小型原動機付自転車の制定、原付カテゴリの変更などがあり、さらに昨今は違法モペッドの問題や、「青切符」制度の導入によって状況は一段と混迷を深めている。日本の自転車事故率は先進国の中でも突出して高く、違法モペッドの横行などによって今後さらに上昇するおそれがあると著者は予測する。

それでも本書では、違法な「自転車もどき」を排し、交通ルールを遵守した上での自転車利用を強く訴える。エコで健康的であり、渋滞を作らない最も効率的なモビリティとしての地位は、200年の自転車の歴史の中で一度も揺らいでいない。その価値を再確認しつつ、法改正の背景を正しく理解し、より安全で持続可能な交通社会を考える視点を示している。(原)

■ 書庫のなかから (所蔵資料の紹介)

『鉄道運輸原論』

エモリー・R. ジョンソン (Emory R. Johnson) 著、
木下淑夫訳

鉄道時報局発行

1921年

所蔵箇所: 上野 (一般公開中)

本号の特集に関連して、米国交通に関する図書を紹介する。本書は、交通経済学者であるジョンソン・ペンシルベニア大学経済商学部長(執筆当時)が20世紀初頭にまとめた *Principles of Railroad Transport* の翻訳書である。当時の米国における陸上交通の覇者は鉄道であったといっても過言でなく、鉄道会社は激しい競争を繰り広げていた。ただ、鉄道技術の研究・教育は米国においても盛んであったが、経営・政策に関しては欧州の後塵を拝しており、本書は、そうした状況を打破することを企図して執筆された。内容は、米国鉄道の歴史・現況、鉄道営業、鉄道と公衆、各国の鉄道政策から構成されている。翻訳に利用された1916年版には、補遺に第一次世界大戦後における米国鉄道の現況も記されている。

なお、本書を翻訳した木下淑夫は、数々の斬新な政策を取り入れた鉄道官僚として知られているが、著者であるジョンソンから米国で直々に教えを受けている。

資料室では、本書のような海外の交通・鉄道に関する翻訳書を多く所蔵している。(土方)

資料室からのご案内

蔵書オンライン検索、新着図書・雑誌の情報、月別新着図書目録、所蔵社史・年史のリストなどは、資料室HP (<https://www.itej.or.jp/about>) をご覧ください。

担当: 古森崇史, 原祥太, 土方規義, 田邊由佳

